

「子ども発達支援センター・さんだ」チャリティ・コンサート

有希・マヌエラ・ヤンケ

# Yuki Manuela Janke

ヴァイオリン リサイタル

Stradivarius 1736 Violin "Muntz"



Photo by 横山 進一



© Shigeto Imura

2018年 7月20日(金)  
18時30分開演(18時開場)

三田市総合文化センター

郷の音ホール 大ホール

主催:子ども発達支援センターさんだチャリティ・コンサート実行委員会 (公財)ひょうご子どもと家庭福祉財団 (社福)ひょうご障害福祉事業協会

協力:日本音楽財団(日本財団助成事業) 協賛:郷の音ホール(三田市総合文化センター)

後援:三田市 三田市教育委員会 三田市音楽協会 三田市医師会 三田市歯科医師会 三田ロータリークラブ 三田市商工会 神戸新聞社 西宮市文化振興財団

「子ども発達支援センター・さんだ」チャリティ・コンサートにお越しいただき、ありがとうございます。

私どもは兵庫県三田の「かるがも園」「すくすく教室」の運営とともに、『子ども発達支援センター・さんだ』で、特別な支援を必要とする子どもに、療育訓練、スポーツ教室、社会生活力プログラム、保護者・専門職員対象の研修会の開催などの民間福祉活動を行っております。

日本音楽財団の協力によるチャリティ・コンサートも、今回で5回目を迎えました。コンサートチケットの収益は、「子ども発達支援センター・さんだ」の活動に使用させていただきます。

公益財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団  
社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会  
理事長 片岡 實  
子ども発達支援センター・さんだ  
チャリティ・コンサート実行委員会



### 子ども発達支援センター・さんだ かるがも園・すくすく教室

子どもの発達支援のための総合的で先駆的な療育活動や研修活動などをすすめています。

子どもの発達過程でのさまざまな問題や心配に、いつでも相談にのります。

一人ひとりの大切な発達を援助するために

#### □ 子ども発達支援センター・さんだ

聴覚言語療法、作業療法、理学療法、感覚統合療法、視機能・視知覚訓練、シェルパーン・ムーブメント・セラピー、社会生活力プログラム、スポーツ教室、療育研修会などの開催

#### □ かるがも園・すくすく教室

子どもたちには、もって生まれたすばらしい能力があります。能力を十分に発揮して自信をもって大きく育つように個々のお子さまにあったプログラムを提供します。

「子ども発達支援センター・さんだ」 兵庫県三田市井ノ草808番地  
Tel(079)568-1955 Fax (079) 560-0595 <http://www.sanda-kodomo.jp>

## Program

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト  
Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

ピアノとヴァイオリンのためのソナタ ト長調 K.301  
Sonata for Piano and Violin in G Major K. 301 (1778)

ジュール・マスネ  
Jules Massenet (1842-1912)

タイスの「瞑想曲」  
"Méditation" from Thais (1898)

アントニン・ドヴォルザーク  
Antonín Dvořák (1841-1904)

8つのユーモレスク 作品 101 第7曲  
Humoresques Op.101 No.7 (1894)

ヨハネス・ブラームス  
Johannes Brahms (1833-1897)

ハンガリー舞曲 第2番 二短調  
Hungarian Dances No.2 in D minor (1869)

ハンガリー舞曲 第5番 嬰へ短調  
Hungarian Dances No.5 in F-sharp minor (1869)

ガブリエル・フォーレ  
Gabriel Fauré (1845-1924)

ヴァイオリンソナタ 第1番 イ長調 作品 13  
Violin Sonata No.1 in A major Op.13 (1876)

 有希・マヌエラ・ヤンケ  
Yuki Manuela Janke

(Violin)



© Shigeto Imura

ドイツ人の父と日本人の母の音楽一家に生まれ、3歳でヴァイオリンを始めた。1991年5歳でドイツ青少年音楽コンクールの8歳以下の部で優勝、9歳でオーケストラデビューを果たした。

2001年ドイツ青少年音楽コンクールの全ドイツ大会、L.シュポア国際コンクールやJ.ブラームス国際コンクールでも優勝。2004年パガニーニ国際コンクールでは最高位と3つの副賞

全てを受賞し、2007年チャイコフスキー国際コンクールで3位、同年サラサーテ国際ヴァイオリン・コンクールで優勝。これまでにベルリン放送響、ケルンWDR響など欧州の数多くのオーケストラと共演。日本ではN響、日フィル、札幌響、大阪フィルなど各地のオーケストラから招かれている。

2012年から2年間、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団（シュターツカペレ・ドレスデン）の460年に及ぶ史上初の女性コンサートマスターを務め、2015年8月にはベルリン国立歌劇場管弦楽団（シュターツカペレ・ベルリン）のコンサートマスターに就任した。

使用楽器は、日本音楽財団より貸与された1736年製作のストラディヴァリウス「ムンツ」。

 林 絵里  
Eri Hayashi

(Piano)



東京生まれ。4才よりピアノを始める。1977年第31回全日本学生音楽コンクール、奨励賞受賞。

桐朋女子高校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業。

ピアノを樋口恵子、弘中孝、故中島和彦の各氏に師事。卒業後、同大学に於いて、2年間、弦楽科伴奏研究員を務める。

1986年第8回チャイコフスキー国際音楽コンクールのチェロ部門で最

優秀伴奏者賞を受賞。1986年より日本国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門の公式ピアニストを務める。1991年、ミュンヘンにて、ワルター・ノータス氏に師事。

これまで、スティーブン・イッサーリス、エドアルド・メルクス、ドン・スク・カン、バルトゥミオ・ニジヨー、ヴィヴィアン・ハーグナー、エリック・シューマン、徳永二男、諏訪内晶子をはじめ、数多くの演奏家と共演。又、NHK交響楽団メンバーとの室内楽演奏や、NHK-FM、CDの録音なども行っている。現在、国内外で共演ピアニストとして活躍中。



## ストラディヴァリウス 1736年製ヴァイオリン

「ムンツ」

Stradivarius 1736 Violin “Muntz”



Photo by 横山 進一

ストラディヴァリウスは、今からおよそ300年前のイタリア・クレモナで作られた。

当時、教会音楽や宮廷音楽が盛んであったため、弦楽器の需要や重要性はますます高まっていた。多くの弦楽器製作者がいる中でアントニオ・ストラディヴァリ（1644～1737）の技術は群を抜いて秀でていた。ヴァイオリンを理想的な形に完成させ、彼の楽器は音色もさることながら見た目の美しさ

も加味され、瞬く間に人気を博した。その人気は現代も衰えることなく弦楽器の最高峰とされている。ストラディヴァリは 94 歳の最晩年まで製作を続け、約 1,100 挺の楽器を製作したといわれている。そのうち、現存するヴァイオリンは約 600～700 挺といわれており、チェロは約 50 挺のみである。

1736年に作製されたこのヴァイオリンの内側に貼られたラベルにはストラディヴァリ本人の手書きで「d'anni 92 (92 歳)」と書かれている。

透明な黄褐色のニスが楽器のほぼ全体に綺麗に残っており、楽器の保存状態も音色も格段に優れている。1874年以降、英国の収集家ムンツが所有していたため、「ムンツ」と呼ばれている。1737年に死去したストラディヴァリが、最晩年に製作した楽器の一つとして知られている。

## 日本音楽財団

日本音楽財団は、創立20周年を迎えた1994年より、クラシック音楽を通じた国際貢献として楽器貸与事業を行って参りました。ストラディヴァリウス19挺、ガールネリ・デル・ジェス2挺を保有し、世界を舞台に活躍する一流の演奏家や若手有望演奏家に、国籍を問わず無償で貸与しています。また、世界的文化遺産ともいわれるこれらの楽器を次世代へ継承するため、管理者として保全に努めています。日本音楽財団の事業は、日本財団の支援により実施しています。